

報告

関東支部会（2017 年 7 月 2 日）の開催報告

亀谷和久（国立天文台）

1. はじめに

2017 年 7 月 2 日（日）午後にプロミティふちのべ（神奈川県相模原市）において本年度第 2 回の天文教育普及研究会関東支部会が開催された。会場は宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所（ISAS/JAXA、以下 宇宙研）のお膝元の JR 横浜線淵野辺駅前に位置している。これにちなんで今回のメインテーマは、「教育・普及における”宇宙”と”天文”の親和性」とした。参加者は関東だけでなく北海道など他支部からも集まり、全体で 34 名となった（図 1）。本稿では、このプログラムおよび発表の概要を報告する。



図 1 参加者の集合写真

2. プログラム

発表はメインテーマに関連する基調講演 2 件、テーマ講演 2 件、一般講演 5 件があり、この他に特別セッションとして天文教育普及研究会の法人会に関する議論の時間が設けられた。プログラムは以下の通りである（敬称略）。

【基調講演】

- ・ 宇宙科学を身近に感じるまち さがみはら
大川拓也（ISAS/JAXA）
- ・ 相模原市立博物館と JAXA 宇宙科学研究所の連携事業について

田子智大（相模原市立博物館）

【テーマ講演】

- ・ こども向け科学館における「宇宙」と「天文」
篠木新吾（釧路市こども遊学館）
- ・ 無関心層を対象としたイベントにおける宇宙と天文のコラボ
小林弘（総合研究大学院大学／国立天文台）

【一般講演】

- ・ Raspberry Pi 3 で運用するインターネット天文台
佐藤毅彦（ISAS/JAXA）
- ・ 平塚市博物館での宇宙開発に関わる博物館活動について
藤井大地（平塚市博物館）
- ・ 第 13 回最新の天文学の普及をめざす WS について
本間隆幸（府中市郷土の森博物館）
- ・ 宇宙の広がりを感じ ～4 次元デジタル宇宙ビューワー Mitaka と組み合わせた、立体星図工作教材の開発

波田野聡美（国立天文台）

- ・ CAP2018 in 福岡のご紹介
高島規子（国立天文台）

【特別セッション】

- ・ 天文教育普及研究会の法人化について
縣秀彦（国立天文台／本会会長）

3. 発表内容の概要

3.1 基調講演

大川氏による基調講演(図 2)では、宇宙研のミッションとその広報・アウトリーチ活動についてご紹介いただいた。宇宙研で行なって

いる研究テーマは、天文学だけでなく、宇宙機やその構造や材料などの工学研究も多い。広報・アウトリーチ活動では、理学と工学のバランスを取るなど、偏った印象を与えないように工夫をしているとのことであった。小惑星探査機「はやぶさ」帰還を契機に宇宙ブームが盛り上がったことは周知であるが、宇宙研では自治体や企業、市民と協力して様々な広報・アウトリーチ活動を展開した。それらの具体例を簡単にご紹介いただいたが、非常に多岐にわたりとても発表時間では全容を語り尽くせないほどの量であった。また、30周年を迎える銀河連邦などの「はやぶさ」以前から続く活動も特筆に値する。脈々と受け継がれてきた地域との連携は財産であり、今後も継続されることが期待される。最後に今年度中に JAXA 相模原キャンパスにオープン予定の展示施設もご紹介いただいた。

田子氏の講演では、相模原市立博物館の紹介とこれまでの取り組みが紹介された。宇宙研に隣接するという地の利を活かして、連携した展示やプラネタリウム番組、講演会などが実施され、さらに地域と連携した宇宙フェスタや音楽などの異分野との複合イベントも企画されたとのことであった。

3.2 テーマ講演

テーマ講演の概要は以下の通りである。篠木氏の発表では、釧路市こども遊学館の紹介と、館内で実施された意識調査の結果が報告された。調査では、87 個の単語の「宇宙度」、「天文度」をアンケートから定量化した興味深いものであった。小林氏の発表では、無関心層へのアプローチとして音楽フェスへの出展が報告された。音楽フェスという非日常空間で、これも非日常である宇宙・天文との出会いの場を提供することが興味の喚起に有効との考察がされていた。



図 2 基調講演を行なう大川氏

3.3 一般講演

佐藤氏の発表では、ガーナで運用中のインターネット望遠鏡の制御コンピュータを Raspberry Pi 3 に更新されたことが報告され、実際にインターネット経由で望遠鏡を操作する実演を交えてシステムの紹介をされた。藤井氏の発表では、平塚市博物館の特別展「知られざる平塚のロケット開発」の企画・実施報告が行なわれた。また、藤井氏の運用する流星カメラによる夜行雲映像が紹介された。本間氏からは、「第 13 回最新の天文学の普及をめざすワークショップ」の内容と参加案内が発表された。波田野氏の発表では、国立天文台のジュニア天文教室で実施している工作から生まれた立体星図教材が紹介された。高畠氏からは、来年 3 月に福岡で開催される国際会議 CAP2018 の内容紹介と参加案内が発表された。

3.4 法人化についての特別セッション

最後に、本会の法人化についての特別セッションが行なわれた。まず県会長から法人化する理由、これまでの経緯、新法人への移行手順および「天文教育」誌 2017 年 5 月号の定款案・細則案を元に運用委員会等を経た改訂内容について報告があり、その後議論の時間が設けられた。議論は、主に定款の内容に

について県会長への質疑応答として行なわれた。以下にその概要を報告する。

Q： 定款(案)第 27 条に役員の任期について「ただし、連続して 2 期までとする」の文を削除するとのことだが、同じ人が際限なく重任されることにならないか？

A： 2 期までに制限すると、2 期の任期後に別の担当の理事に就くことができなくなるためこの文を削除した。例えば、副会長を 2 期（4 年）務めた理事が仮に次の選挙で会長に選ばれたとすると、この定款に抵触するので会長に就任できなくなる。そのようなことを避けるために削除した。法人法では理事は 2 年が任期だが、本会は法人化後は基本 2 期 4 年の役員をお願いしたいと考えている（監事は法人法上で任期 4 年と規定）。理事に関しては 6 期以上で制限することは検討の余地があるので、必要なら関東支部から「修正案」として提案してほしい。法人化準備委員会でもさらに検討したいと思う。

Q： 選挙に関する細則(案)の附則にある、最初の選挙では当選者の得票数の奇数順位の者の任期を 4 年、偶数順位の者の任期を 2 年とすると定めているが、このようにする理由は？単純に得票数の多い候補者を 4 年、少ない候補者を 2 年とすべき。

A： 最初の選挙のみ変則的な対応となる。ご指摘の点は、細則(案)なので、次期運営委員の皆さんとも協議して適切な方法を決めていきたい。

Q： 代議員の解任についての規定も必要ではないか？

A： 法人化検討委員会にて検討したい。

3.5 見学会と懇親会

今回の関東支部会に先立って、同日午前中に希望者を対象に宇宙研と相模原市立博物館の見学会が催された。宇宙研では展示室内の展示について、大川氏に解説していただきながら見学した。ペンシルロケットの実機から

最新の衛星の試験モデルまで、展示された「本物」を前に参加者の興味が尽きず、多くの質問が出ていた。博物館では、天文展示室およびプラネタリウム（10 分間の無料お試し放映）を観覧した。日曜日ということもあり、館内は多くの来館者で賑わっていた。

支部会終了後は、会場近くの店で懇親会が行なわれた。淵野辺駅周辺では、宇宙を感じる特別メニューを開発している飲食店が多い。今回の懇親会場はそのうちのひとつになんと定休日にもかかわらずほぼ貸切り状態で開店していただいた。相模原の地域に根付いた宇宙に対する理解と研究開発活動への応援を感じつつ、特別メニューを堪能し、参加者の交流と活発な議論は夜遅くまで続いた。

4. おわりに

今回の関東支部会の発表は基調講演、テーマ講演、一般講演を通じて個性的な内容が多く、参加者もおなじみの顔ぶれから初参加の学生さんまでバラエティに富んでいた。時間的に少々詰め込んだ感があり質疑応答の時間が足りなかったかもしれないが、懇親会も通じて十分に交流できたのではないだろうか。支部委員としては、今回の支部会が参加者の今後の活動の糧になれば幸いである。

最後に、本支部会に際して、基調講演だけでなく会場手配と宇宙研見学対応までご協力いただいた大川拓也氏および発表者・参加者の皆様にこの場を借りて御礼を申し上げたい。